

## 日本人学生の異文化コミュニケーション意欲に影響を与える要因

内田 愛里香

近年、社会や大学のグローバル化が進み国境を越えた人の移動が盛んになっている。「留学生 30 万人計画」などの実施に伴い、諸外国の人々と互いに助け合い生きていくことが必要であり、お互いの意思疎通のためのコミュニケーションが益々重要となっている。それに関連して、文化的背景の異なる人との違いを受容する日本人の寛容性が問われる。

外集団に対する寛容性と、内集団に対する集団同一性について、植村(2001)によれば、集団同一性が高い人ほど、同じ集団に興味関心を示す新入成員という異質な相手に対して寛容的になり、積極的に歩み寄ることが明らかになった。

また、小林・池田(2008)によると、携帯メールは、親しく同質性の高い相手とのやり取りに使用されるのに対し、PCメール利用は、異質な他者とのコミュニケーションを促進し、社会的寛容性を押し上げる効果がある。しかし、社会的寛容性がメディア使用、それによる対人関係にどのような影響があるのかは明らかになっていない。とりわけ、現在大学生らがemailよりインスタントメッセージング(IM)を多用する(叶ほか, 2016)というメディア環境が変化してきている中、社会的寛容性がメディア使用に与える影響を検討する必要があると考える。

さらに、田中(2000)によると、心理的な援助が得られるソーシャル・サポート・ネットワーク(SSNs)の形成が、異文化適応を促進する効果がある。異文化適応は異文化コミュニケーションと深く関わっており、諸外国人とSSNsを形成することは、異文化コミュニケーション意欲を促進する効果があると考えられる。

以上から、本研究は、日本人学生の集団同一性が社会的寛容性を押し上げ、異文化コミュニケーション意欲の向上にポジティブな効果があるのか、および日本人学生の対面・IMによるSSNsの構成を明らかにし、異文化コミュニケーション意欲に与える媒介効果を明らかにすることを目的とする。

これらを解明するために、本研究では、筑波大学に在籍する大学生・大学院生 377 名を対象に質問紙調査を実施し、200 名の有効回答数を用いた。調査項目は、個人情報、コミュニケーションメディアの使用状況、対面・IMを介したSSNs、社会的寛容性、集団同一性、異文化コミュニケーション意欲などで構成した。

(1)重回帰分析を行った結果、「語学力」「留学経験」「社会的寛容性」が異文化コミュニケーション意欲に正の影響をもたらし、その中でも社会的寛容性が最も強い影響がある。

(2)共分散構造分析を行った結果、集団同一性は社会的寛容性を押し上げ、社会的寛容性はIMを介した外国人とのSSNsに媒介して、異文化コミュニケーション意欲にポジティブな効果をもつ。以上の結果より、異文化コミュニケーション意欲を高めるには、①社会的寛容性を養うことが重要で、②IMを利用するのが1つの有効方法であることが示唆された。

(指導教員 叶少瑜)